

シャイン

— 受講のきっかけと今 —

シャイン 045号

4つの対人援助技術を発展させ 新たな相談援助技術の創生

佐藤 二郎さん

法人名：一般社団法人 茨城県介護支援専門員協会 役職：副会長
資格：産業カウンセラー、ケアマネジャースーパーバイザー、あん摩マッサージ指圧師等



【受講のきっかけ】

2000年介護保険制度スタート以来、ケアマネジャー一期生として20年生となった。

日本大学経済学部卒業後、国際鍼灸専門学校に進学し、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師という3つの国家資格を取得。これを基礎資格としてケアマネになった。

福祉最前線で担当する事例には、虐待、DV、貧困、生活保護、認知症、精神科疾患、ゴミ屋敷、多問題家族、自死、在宅看取り等々が複数潜在し、かなりストレスフルな日常となる。明確に専門境界を引き、常に自己覚知し、学問的裏付けで脚下照顧していないとバーンアウトする。ケアマネ3年目にスランプに陥った。仕事は万遍なく出来るのだが、以前の満足感が得られない。業務の弱点を補うべく一念発起し夢中で勉強を開始した。

モチベーション維持で一番有効な手段は資格を取得することだ。その時に取得した資格が、日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャースーパーバイザー、社会福祉士、精神保健福祉士、福祉用具専門相談員等々である。国家資格は5つに増えたが、それで困難事例が解決出来るほど甘くなかった。

いつしか人の死が日常となり、御焼香に伺っても無感動になっている自分に気付いた。そんな「荒んだ日常」を誰かに聴いてもらいたい。そして、できるなら自分が、厳しい現実を抱えている利用者・家族、援助者を「受容」できる人間になりたい。そんなモヤモヤの中、産

業カウンセラー養成講座『受容と傾聴』のタイトルと出会った。運命の出会いだ。迷いなく申し込み、2017年度の養成講座で学んだ。

【資格取得後の活動状況】

相談援助のプロとして既に体得していると思いついていた傾聴技術が再び向上した事に驚いた。業務時、特に誤解を招きやすい質問で、所謂「どこで死にたいか」がある。本音は自宅だが家族に遠慮して施設と言ってしまうご本人。腹を括って在宅看取りを決断したのに思いがスレ違う家族。家族システムはデリケートだ。資格取得以前より個別面接の回数や時間が自然と増えた。各々本音を吐露する機会が増え、結果、調整がスムーズになった。自分の中で「傾聴」に対する優先順位が上昇し調整能力が増したのだ。

ケアマネは、国から受講を義務付けられている数々の法定研修があり、この研修や自治体、各ケアマネ会の講師をしている。現在私の課題は、「後進育成・地域づくり」の為にスーパービジョンを行うことだが、ケアマネジメント、スーパービジョン、コーチング各々の実践段階で、相手との関りを深めるカウンセリング技術は、全方位に「鬼に金棒」となっている。

この4つの対人援助技術を駆使・融合し、進化・発展させ、新たな相談援助技術が生まれる事を夢見ている。